第一回入ゼミ説明会用パンフレット　堤林研究会

➀教授の顔写真



②教授からのメッセージ

当ゼミではデモクラシーを実践しています。もちろん、私は指導教員なのでいくつかの重要な特権は保持していますが、多くの事柄については（例えば、輪読文献の決定やさまざまなイベントの企画）ゼミ生の自主的行動に任せています。ですので、知的刺激とユーモアに満ちたアカデミック・コミュニティーづくりに積極的に取り組んでくれる学生を期待しています。幸いにも、現在に至るまで（つまり、1期生から18期生まで）チャレンジ精神が旺盛で個性的なゼミ生に恵まれてきました。今後もこうした雰囲気と伝統が続くことを願っています。

デモクラシーが堕落するとアナーキーになり、最終的には恐ろしい僭主が登場して最悪の事態を招くというのは古代ギリシア以来の政治学的常識です。したがって、デモクラシーがまともに機能するためには有徳な市民が存在しなくてはならないのと同じように、ゼミも民主的に運営するのであれば、そこには「有徳なゼミ生」が求められることになります。ともかく、私には僭主願望はありませんので、自由でお互いの個性をリスペクトできるような、知的にしてユーモラスな雰囲気が続くことを切望しています。

さて、ゼミでの研究内容ですが、ここでもゼミ生の自主性が尊重されますので、各々のゼミ生は自由なテーマで三田祭論文と卒業論文を書くことができます。重要なのは、自らの頭を最大限に働かせ、明確な問題意識の下、学問をするということです。ただ、当ゼミが掲げる看板は政治思想ですので、ゼミで輪読する文献は基本的には思想のテクストになります。具体的に何を読むかはゼミ生と相談して決めますが、少なくとも前半は政治思想の古典（プラトン、アリストテレス、マキアヴェッリ、ホッブス、ロック、ルソー、ミルなど）にしたいと考えています。また、毎週行うゼミでは、何よりもディスカッションを重視します。単に文献を読んで知識を頭の中に詰め込むというのではなく、文献を批判的に吟味しつつ自らの意見を展開し、他のゼミ生の意見と戦わせ、その対話の中から何かを発見する（「多事争論」）というプロセスが重要なのです。

　以上のような方針でゼミを行いたいと思いますので、個性的で批判精神が旺盛で、思想に興味がある学生は奮ってご応募ください。

③研究対象

西洋政治思想

④ゼミ生の構成

18期 3年生 22名

⑤他部活の受け入れ可否

受け入れ可

⑥留学から帰ってくる学部生の扱い

原則、本来の学年の学生と同様（応相談）

⑦ゼミ生からのコメント

　当ゼミは古代ギリシャの直接民主制を採用しており、とても自由度の高いゼミです。ゼミの時間には、西洋政治思想を扱うことが多いですが、ゼミで輪読する書籍はゼミ生全員で決めることができるため、読もうと思えばなんでも読めます。

　学生主体の研究会なので、ゼミや合宿での議論は基本的に学生が進め、堤林先生は学生に対してヒントや新たな視点を当意即妙に与えて下さいます。時には議論が迷走することもありますが、個性豊かなゼミ生同士の議論から生まれる多様な考え方こそが当研究会の特長です。

　思想に興味がある方、読書好きの方、議論好きの方は是非ご応募下さい。ゼミ生一同、お待ちしております。

⑧使用文献

プラトン『国家』『ソクラテスの弁明』

　マキャベリ『君主論』

　J.S.ミル『功利主義』

⑨ホームページアドレス

　http://tsutsumin.wixsite.com/tsutsu-semi

⑩連絡先

　mail: tsutsumibayashi2022@gmail.com